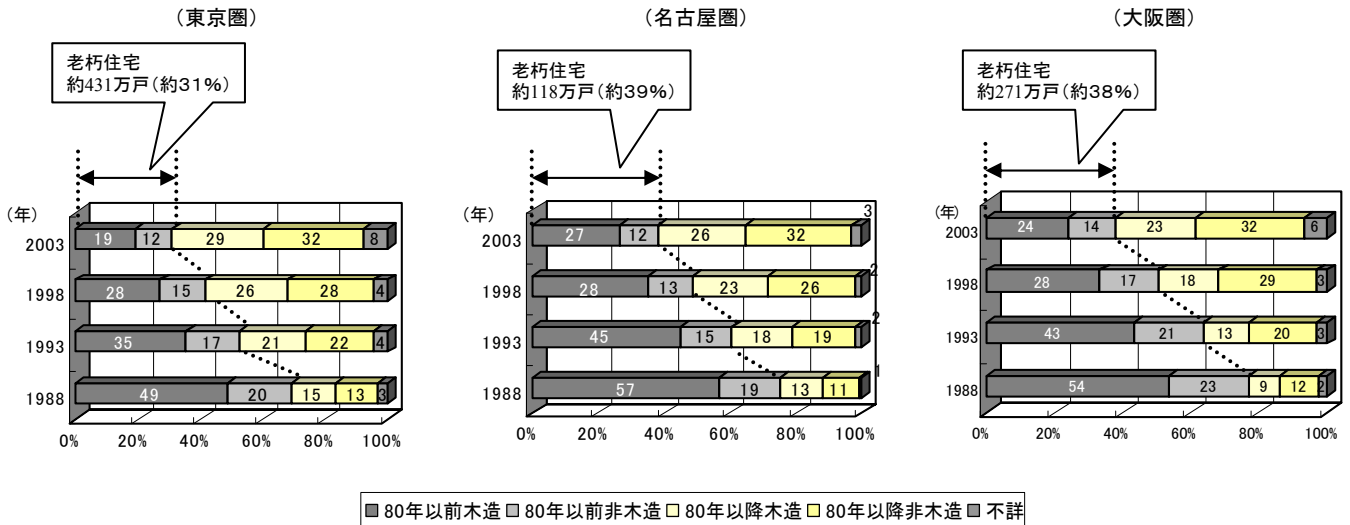


指標：住宅の建築年代別構成比

(老朽住宅の更新)

1980年以前に築造された老朽住宅の割合は減少している。

各大都市圏における住宅の建築年代別構成比の推移



(注)

- ここでは、東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県  
名古屋圏：愛知県、三重県  
大阪圏：京都府、大阪府、兵庫県

2. 木造：木造、防火木造

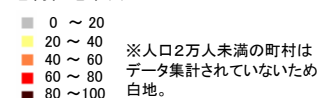
非木造：鉄骨コンクリート造、鉄筋コンクリート造、ブロック造、鉄骨造など

- 1978年の宮城県沖地震後、1981年に建築基準法の大改正がなされ現在の新耐震設計基準が誕生した。この新耐震設計基準による建物は阪神・淡路大震災においても被害は少なかった。この教訓をもとに1995年「建築物の耐震改修の促進に関する法律」が施行され、新耐震設計基準を満たさない建築物について積極的に耐震診断や改修を進めることとされた。

(出典)総務省「住宅・土地統計調査」(S63),(H5),(H10),(H15)をもとに国土交通省国土計画局作成。

各大都市周辺における老朽住宅率の推移(1993年→1998年)

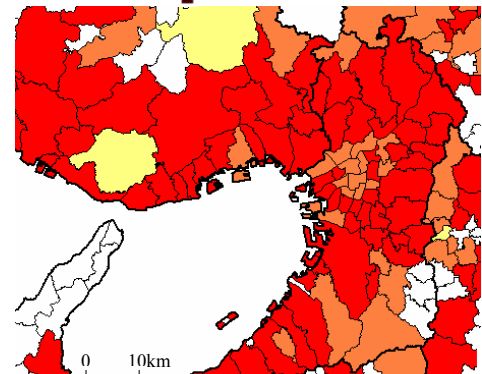
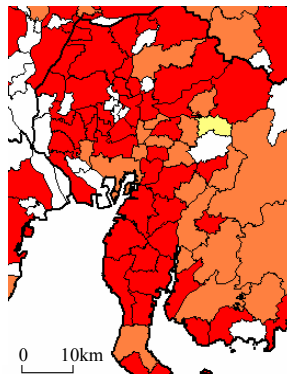
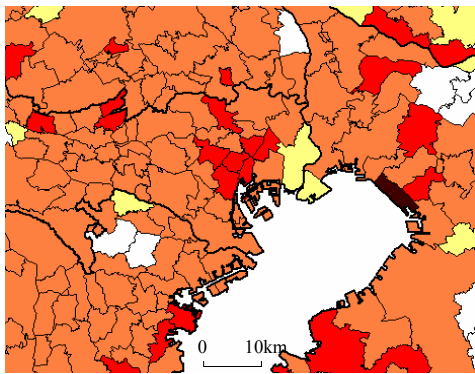
老朽住宅率(%)



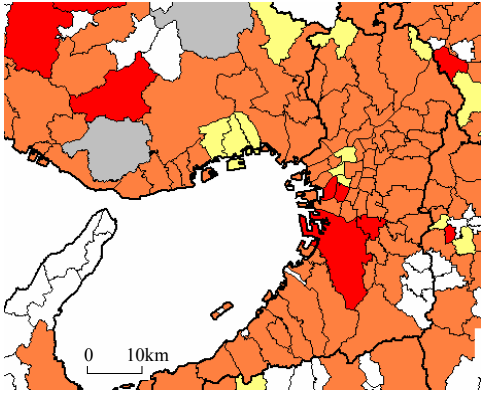
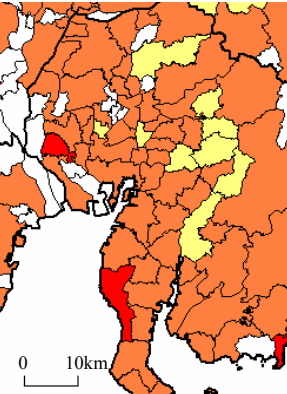
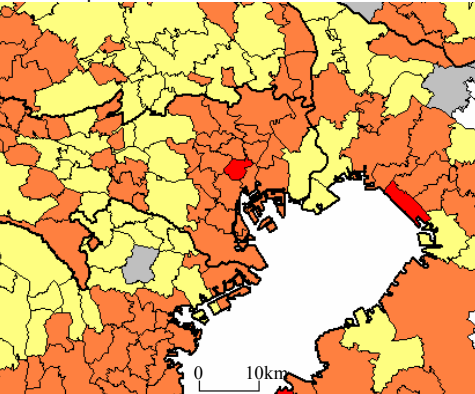
1993年 (東京都区部周辺)

(名古屋市部周辺)

(大阪市部周辺)



1998年



(注)老朽住宅率：1980年以前に築造された住宅戸数／総住宅戸数\*100

(出典)総務省「住宅・土地統計調査」(H5),(H10)をもとに国土交通省国土計画局作成。